北九州工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2	018年度)	授業科目	国語Ⅱ		
科目基礎情報								
科目番号	0005			科目区分	一般 / 必	修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位	: 2		
開設学科	生産デザイン工学科(物質化学コース)			対象学年	2	2		
開設期	通年			週時間数	2	2		
教科書/教材	「新高等学校国語総合」明治書院 、『意味で覚える漢字トレーニングセレクト』いいずな書店							
担当教員	豊田 圭子		·	·	·			
到達目標								

- 1. 論理的な文章を読み、構成や展開に基づいて論旨を理解し、要約することができる。2. 文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。3. 古文・漢文を正しく音読し、リズムや韻などを味わうことができる。短歌・俳句・現代詩の表現を学び、自ら創作できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章の構成・展開を正し く理解し、要約した上で、自分の 意見を表すことができる。	論理的な文章の構成・展開を正し く理解し、要約できる。	論理的な文章の構成・展開を理解 、要約することができない。
評価項目2	文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果を説明できる。また、代表的な文学作品の日本文学史上における位置を理解できる。	文学作品を読み、人物・情景・心 情の描写などを味わい、その効果 を説明できる。	文学作品を読み、人物・情景・心 情の描写などの効果を説明できな い。
評価項目3	古文・漢文を正しく音読し、リズムや韻などを味わうことができる。 短歌・俳句・現代詩の表現を学び、熟語・ことわざ・慣用句などの知識を活用し、自ら創作できる。	古文・漢文を音読し、リズムや韻 などを味わうことができる。短歌 ・俳句・現代詩の表現を学び、創 作できる。	古文・漢文を正しく音読し、リズムや韻などを味わうことができる。 短歌・俳句・現代詩の表現を学び、創作することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本授業では、1年次より高度な、論理的コミュニケーション能力を養い、幅広い日本語・日本文学の知識に立脚する理解と表現の力を確立することを目的とする。文章理解を通じて豊かな人間性を培う。漢字・語句の学習を行い、日本語の語彙力を向上させる。レポートや口頭発表を通じて、表現力・文章力を涵養する。なお、本授業は文系科目における科目間連携の充実を目指した授業である。
授業の進め方・方法	精選された文章を読み、教員との質疑応答を通じて理解・見識を深める。
注意点	次回学習する単元を予習してくること。配布する参考資料や課題等を、各自整理すること。問いに対して簡潔明快な答えで回答すること。辞書類、国語便覧を活用し、積極的に疑問を投げかけてほしい。漢字検定4~2級程度の読み書きができる・語彙力を養うため、授業では漢字小テストを実施する。

授業計画

1X-X-III E		週	授業内容	週ごとの到達目標
		旭		
		1週	ガイダンス 随想(1)	授業の目標と概要の説明。 文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解する。。
		2週	随想 (2)	随想の構成・文章の展開を理解する。
		3週	随想 (3)	筆者の考え、心情を正しく読み取り、文章を要約する ことができる。
1stQ		4週	小説 (1)	文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解する 。通読し、話の展開を摑むことができる。
	1stQ	5週	小説 (2)	小説の登場人物の描写から心情や状況を読み取ること ができる。
		6週	小説 (3)	各登場人物の関係や、小説の主題を理解することがで きる。
		7週	中間試験	1~6週までの内容を網羅した試験により、授業内容 の理解の定着を図る。
前期		8週	試験解説 短歌・俳句(1)	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正解だったのかを考える。 短歌・俳句を読み、背景にある状況を理解する。
	2ndQ	9週	短歌・俳句(2)	自ら短歌・俳句を創作できる。作品を発表し、他者の 作品を鑑賞できる。
2		10週	古文(1)	身近な古文表現に親しみながら、古典文法・表現を理解する。
		11週	古文(2)	物語の作者と作品成立について学ぶ。 助動詞の用法を学び、現代語訳するこができる。
		12週	古文(3)	物語を読み、登場人物の関係性を理解する。登場人物 の人間像をとらえる。
		13週	古文(4)	日記・随筆の作者と作品成立について学ぶ。他作品との関係を理解する。
		14週	古文(5)	日記・随筆の内容から、作者の心情を読み取ることが できる。
		15週	期末試験	8~14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	試験内容の解説	試験の内容を理解し、不正解だったところはなぜ不正 解だったのかを考える。
後期	3rdQ	1週	評論 (1)	文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解する 。文章の構成・展開を理解する。

		1	1				笠まるシェナナー・	=+- =	7	1
		2週	評論	(2)			筆者の主張を文章が 主張を踏まえた要約	から読み取 内をするこ	る。 とができる。	
	3週	小説	(1)		文章中に出てくる難解な語句の意味。 。文学について造詣を深める。			の意味を調べ 。	、理解する	
		4週	小説	(2)	小説の登場人物の描写から ができる。		描写から心	から心情や状況を読み取ること		
		5週	小説	(3)			各登場人物の関係か きる。	っ、小説の	主題を理解す	ることがで
		6週	詩 (:	1)			各詩人の詩を読み、 説明することができ		ンなど詩の特	徴・効果を
		7週	詩(2	2)			学習した詩の特徴 る。他者の詩を鑑賞		まえて自ら死	を創作でき
		8週	中間語	式験			1~7週までの内容 の理解の定着を図る	字を網羅し る。	た試験により	、授業内容
	9週		試験戸漢文	内容の解説 (1)	試験の内容を理解し、不正解だったのかを考える。 身近な漢文表現に親しみな		える。			
			漢文 (2)				漢詩のきまりやリス	ズム、韻を	学ぶ。	
		11週	漢文	(3)	正しく本文を訓読することだ 訓読文から現代語訳をつくる 内容を正確に把握し、故事の る。 本文の白文に訓点を付すこの 文章のに出てくる難解が語			することが Rをつくる	できる。 ことができる	0
		12週	漢文	(4)				ン、故事の を付すこと	意味を考える ができる。	ことができ
	4thQ	13週	評論	(1)			文章中に出てくる第 。文章の構成・展開	世界10日リ		、理解する
							筆者の主張を文章が	いら読み取	り、要約する	
		14週		評論(2)			る。 学習した評論に対し、自らの意見を発表することがで きる。			
		15週 🖫		定期試験			9~14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。			
	16週		試験区	試験内容の解説 試験の内容を理解し、不正解だったのかを考える。			ノ、不正解 える。	解だったところはなぜ不正		
モデルコ	アカリキ	-ユラムの)学習	内容と到達	目標					
分類		分野			学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
					論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。					
						₹3計論)の種が、195	茂州を別権にこりん	、安約で	2	
					きる。 論理的な文章(論説:		_{医開を的唯にとられ} た考えに対して、そ を述べることができ	 の論拠の	2	
					きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま	や評論)に表された えて自分の意見を や随筆)に描かれた	た考えに対して、そ を述べることができ た人物やものの見方	の論拠の る。		
					きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説 即して読み取り、自 常用漢字の音訓を』	や評論)に表されが えて自分の意見 や随筆)に描かれが 自分の意見を述べ Eしく使える。主	た考えに対して、そ を述べることができ た人物やものの見方 ることができる。 な常用漢字が書ける	の論拠の る。 を表現に	2 2 2	
					きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説 即して読み取り、自 常用漢字の音訓を引 類義語・対義語を思	や評論)に表されが えて自分の意見 や随筆)に描かれが 自分の意見を述べ Eしく使える。主 思考や表現に活用	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。	の論拠の る。 を表現に 。	2	
				_	きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説 即して読み取り、自 常用漢字の音訓を引 類義語・対義語を思	や評論)に表されが えて自分の意見 や随筆)に描かれが 自分の意見を述べ Eしく使える。主 思考や表現に活用	た考えに対して、そ を述べることができ た人物やものの見方 ることができる。 な常用漢字が書ける	の論拠の る。 を表現に 。	2 2 2	
					きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説: 即して読み取り、自 常用漢字の音訓を 類義語・対義語を思 社会生活で使われて きる。 専門の分野に関する	や評論)に表された えて自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主意 まさや表現に活用 こいる故事成語・ ものある。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものである。 ものものものである。 ものものものである。 ものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものである。 ものものものものものものものである。 ものものものものものものものである。 ものものものものものものものである。 ものものものものものものものである。 ものものものものものものである。 ものものものものものものである。 ものものものものものものものである。 ものものものものものものものである。 ものものものものものものものものものものものものものものものものものものもの	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 慣用句の意味や内容	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で	2 2 2	
基礎的能力	人文・社科学	t会 _{国語}			きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説: 即して読み取り、自 常用漢字の音訓を 類義語・対義語を思 社会生活で使われて きる。 専門の分野に関する	や評論)に表された えて自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主意 まさや表現に活用 こいる故事成語・ ものある。 ものものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもの	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 慣用句の意味や内容	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で	2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文・社 科学	t会 _{国語}		国語	きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説 即して読み取り、自 常用漢字の音訓を立 類義語・対義語を思 社会生活で使われて きる。 専門の分野に関する 実用的な文章(手紙 を用いて作成できる	や評論)に表された えて自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主意 まさや表現に活用 いる故事成語・ のる故事成語・ のる故事成語・ のるが事成語・ のるが事成語・ のるが事成語・ のるが事が表	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 慣用句の意味や内容	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で 裁や語句	2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文·社 科学	社会 国語		国語	きる。 論理的な文章(論説 妥当性の判断を踏ま 文学的な文章(小説 即して読み取り、自 精義語・対義語を思 社会生活で使われてきる。 専門の分野に関する 実用的な文章(手紙を を用いて作成できる。 報告・論文の目的に 報告・報告を収集できる。 収集した情報を分材	や評論)に表されが に表されが に対してはかれが 自分の意見を述べる。主意 をしく使える。主意 は、では、では、では、 は、では、では、では、 ののでは、では、では、 ののでは、では、 ののでは、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。な常用漢字が書けるできる。慣用句の意味や内容 現に活用できる。手や目的に応じた体、インターネットかて整理できる。	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で 裁や語句	2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文·社科学	社会 国語		国語	きる。 論理的な文章(論説・ 妥当性の判断を踏まり、対策を関して、 対策を関して、 対策を関して、 対策を関い、 対策を対象を 対策を 対策を 対策を 対策を 対策を 対策を 対策を 対策を 対策を 対策	や評論)に表された。 えて自分の意見で や随筆)に描かれた。 自分の意見を述べ としく使える。主意 まきや表現に活用 こいる故事成語・ のる故事成語・ のる故事が、相いるが、 のもいでは、 のもい	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。な常用漢字が書けるできる。慣用句の意味や内容現に活用できる。手や目的に応じた体、インターネットがて整理できる。して、主張が効果的	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で 裁や語句 ら適切な	2 2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文·社科学	t会 国語		国語	きる。 論理的な文章(論説・ 妥当性の判断を踏まり、(小説・ の判して読み取りでは、ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののできるが、 ををいる。 ののは、 ののできるが、 のできるが、 ののできるが、 ののでは、 ののは、 のの	や評論)に表された に表て自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主 まきや表現に活用 にいる故事成語・ のあまりを、相 ものにして、印刷物、 し、目的にを基に をした情報を表し、 での内容および自 との内容および自	た考えに対して、そを述べることができた人物やものの見方ることができる。な常用漢字が書けるできる。慣用句の意味や内容 現に活用できる。手や目的に応じた体、インターネットかて整理できる。	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で 裁や語句 ら適切な に伝わる る。	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文·社 科学	社会 国語		国語	きる。 論理的な判断を領に論説。 第3世代の判断を別別の判断を別別の表現的な判断を別別の表現的で表現的で表現的で表現的で表現的で表現を表生を表生を表現を表生を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	や評論)に表された。 を記す自分の意見。 や随筆)に描かれた。 自分の意見を述べ、 としく使える。主ま、 まや表現に活用。 いる故事成語・「 のおいる故事が表す。 のは、日的に応じて、印刷物、 し、目的に応じて、印刷物、 し、目がである。 には、日のに応じて、日のに応じて、日のに応じて、日のに応じて、日のに応じて、日のに応じて、日のに応じて、日の内容および自じである。	た考えに対して、そきを述べることができる。 た人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 は常用の意味や内容 関用句の意味や内容 現に活用に応じた体 インターネットか て整理できる。 して、することが効ができる。 して、することである。	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で 裁や語句 ら適切な に伝わる る。	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文·社 科学	社会 国語		国語	きる。 論理的な文章(論説: 妥当性の文章(論説: 妥当性のな判章を別意を別意を別意を別意を別意を別意を別意を別意を別意。 対象を表して、一般のでは、一般	や評論)に表された。 えて自分の意見: や随筆)に描かれた。 自分の意見を述べ。 としく使える。主記 きや表現に活用。 いる故事成語・「 の内語を思き、相いる。 にいるはない。 の内容、相いる。 にいるはない。 にいるはない。 の内容、はいるにをとし、はいるにない。 では、はいるにない。 では、はいるにない。 では、はいるにない。 では、はいるにない。 では、はいるは、はいるにない。 では、はいるには、はいるにない。 では、はいるには、はいるは、はいる	た考えに対して、そきを述べることができる。 た人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 は常用の意味や内容 関用句の意味や内容 現に活用に応じた体 インターネットか て整理できる。 して、することが効ができる。 して、することである。	の論拠のる。を表現に。を説明で 裁や語句 に伝わる。 的確に口	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力	人文·社 科学	t会 国語		国語	きる。 論理的な文章(論説書) 一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学のでは、一会の大学の大学のでは、一会の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の	や評論)に表された えて自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主 まや表現に活語・ ののでである。 ののでである。 にいるがある。 にいるがある。 では、自然である。 には、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然でな。 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、	た考えに対して、そを述べることができる。 た人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 慣用句の意味や内容 現に活用できる。 野や目的に応じた体 、インターネットか て整理できる。 して、することができ 分の思いや考えを、	の論拠のる。を表現に。を説明で基めい。	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎的能力		社会 国語		国語	きる。 論理的な判すでは、一次のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	や評論)に表された えて自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主 まや表現に活語・ ののでである。 ののでである。 にいるがある。 にいるがある。 では、自然である。 には、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然でな。 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、	た考えに対して、そを述べることができる。 た人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 慣用句の意味や内容 現に活用できる。 野に活用に応じた体 インターネットかて整理できる。 して、することがができるの思いや考えを、 きる。 論を通して集団とし	の論拠のる。を表現に。を説明で基めい。	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
評価割合	試馬	検	\(\frac{1}{2}\)	国語	きる。 論理的な判すでは、一次のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	や評論)に表された えて自分の意見 や随筆)に描かれた 自分の意見を述べ としく使える。主 まや表現に活語・ ののでである。 ののでである。 にいるがある。 にいるがある。 では、自然である。 には、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然である。 はな、自然でな。 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、 はな、	た考えに対して、そを述べることができる。 た人物やものの見方ることができる。 な常用漢字が書けるできる。 慣用句の意味や内容 現に活用できる。 野に活用に応じた体 インターネットかて整理できる。 して、することがができるの思いや考えを、 きる。 論を通して集団とし	の論拠のる。を表現に。を説明で基めい。	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
評価割合総合評価割	試5	φ	10	国語	きる。 論理 (論語) (論語) 音 (論語) 音 (神と	や評論)に表された に表えて相談に表します。 に表えて相談に表します。 に表えてもない。 に表現には語い。 には、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然で	た考えに対して、できた述べることができる。 は常用等のの意味や内容できる。 関用句のの意味や内容できる。 関に活用的に応じた体 インターネる。 して、するの思いや考えを、 して、するの思いや考えを、 きる。 情を通して集団とし か、自分の思いや考	の論拠の る。 を表現に 。 表説明で 裁や語句 にる。 の確に口 ての思い えを整理 0	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
評価割合総合評価割基礎的能力	試 合 60 60	φ	10 10	国語	きる。 論理性の (論語) 章(論語) 章(語) 章(記述) 章	や評論)に表された に表ででは に表でで に表でで に表でで に表でで にませい。 にませい。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	た考えています。 に考えています。 に大物でですがまます。 に大物でですがまます。 はできる。 はできる。 におきる。 におきる。 におきる。 におきる。 はできる。 におきる。 におきる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 になられる。 にならないかががまえる。 はないの思いや考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないの思いを考える。 はないのとの思いを考える。 はないのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのと	の論拠の る。 を表現に 。 を説明で 裁 ら 適切な にる。 の て の 思 取 で え を 整理 で る の 他 0 0	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
評価割合総合評価割	武馬 合 60 60 0	φ	10	国語	きる。 論理 (論語) (論語) 音 (論語) 音 (神と	や評論)に表された に表えて相談に表します。 に表えて相談に表します。 に表えてもない。 に表現には語い。 には、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然で	た考えに対して、できた述べることができる。 は常用等のの意味や内容できる。 関用句のの意味や内容できる。 関に活用的に応じた体 インターネる。 して、するの思いや考えを、 して、するの思いや考えを、 きる。 情を通して集団とし か、自分の思いや考	の論拠の る。 を表現に 。 表説明で 裁や語句 にる。 の確に口 ての思い えを整理 0	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	